
以前より近くに

あーゆ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

以前より近くに

【Nコード】

N9418X

【作者名】

あーゆ

【あらすじ】

帰国した有希子の感じた嬉しい” 以前との違い”

(前書き)

有希子さん、いつものように突然の帰国です

「…ふむ。」

大きな洋館の広いリビングを見渡し
工藤有希子は久しく見た自分の家の”違和感”に嬉しそうな笑みを
浮かべる。

バタンっ

二階から慌ただしく降りてきた人物は少しばかり不機嫌そう。

「母さん！！帰国するなら連絡いれろっていつも言ってたんだろ。」

「なあんで自分の家に帰るのに息子の許可が必要なの？
それにたまたまに連絡すると邪険に扱ってくせにい」

年を感じさせない愛くるしい顔で自分の息子を軽く睨む。
でもすぐに笑顔にかえて

「ねえ。新ちゃん

なんだかうまくやってるみたいだけど…報告ないの？」

「な…なにが」

「またまたあゝ！！」

年頃の男の子が一人きりで生活してて玄関や廊下、リビングにキッ

チン。こんなにピカピカなわけないわ!!
しかも台所は綺麗になってるけどさっき飲んだらしきコーヒー。コ
ーヒーメーカーの横は乱雑になってるし粉も落ちてる。
女の影ね…」

にやりと笑ってポーカーフェイスの息子を見る。

「…わかってて俺の口から報告させてえの?」

「今日は来ないの? 久々に会いたくなっちゃったー 今から連絡し
てよ!!」

「む・り!!」

なにかせわしなく新一は出かけるしたくをする。

「なになに? 出かけるの?」

「ああ。今日はサッカー部に試合頼まれてんだ」

時計を確認しながら新一は答える。

「いきなり来るとこんなことになんだよ。予定が合わなかったりさ。
」

「もー。じゃあわたしから蘭ちゃんに直接連絡してシヨツピングに
…」

「だ・め!!」

先ほどよりもはっきりとした口調に有希子は驚く。

「蘭は今日は空手部！！午後は俺の応援にくるってさ。」

「じゃあわたしもたまには新ちゃんの応援に行こうかなー。優作も帰りは夜だし。せつかくの日本なのにみんな忙しいのね。」

ぴんぽーん

チャイムが響く。

「あ……」

新一が玄関に行こうとするのより早く有希子が駆け出す。

「蘭ちゃん久しぶりー！！！！」

ドアが開くのと同時に抱きつかれた蘭は目の前の状況が把握できていない様子で目を白黒させる。

でもすぐに理解し

クスクスと小さく笑う。

「いつ日本に？おかえりなさい、おばさま」

「今朝よ、今朝！！会いたかったわ、蘭ちゃん！！」

「……………母さん、俺らもう家出るから蘭は離してくれ」

呆れた様子で新一は話しかける。

「わたしも午後に応援行くから!!」

「いいよ…高校生で親の応援って…」

「いいじゃない!!おばさま、あたし12:30には部活終わりますから校門にいます。一緒に応援しましょうね」
「につこりと蘭は微笑んで約束をとりつける。」

新一と蘭のうしろ姿を見届けながら
前に帰国したときよりも少し近づいて歩く2人に満足した。

「ふふっ長い長い片思いだったわね、新ちゃん」

(後書き)

新くんは

きつとdinnerにはご両親に事情聴取されながら散々からかわれたことでしょう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9418x/>

以前より近くに

2011年10月26日11時05分発行